

(6) ファカルティ・ディベロップメント委員会**① 設置の趣旨（目的）及び組織****ア 組織設置の趣旨（目的）**

ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）委員会は、上越教育大学における教育活動の質的向上と発展を期して、FD 活動を実施することを目的としている。

イ 組織の構成及び構成員等

FD 委員会は、①FD 担当の副学長、②各専攻・コースから選出された教授又は准教授（講師及び助教を含む。）、③その他学長が指名した者の計 12 人で構成されている。

② 運営・活動の状況**ア 委員会等の開催状況**

令和元年度においては、以下のとおり FD 委員会を 5 回開催した。

- ・ 第 1 回 令和 2 年 5 月 29 日（金）
- ・ 第 2 回 令和 2 年 6 月 18 日（木）
- ・ 第 3 回 令和 2 年 7 月 17 日（金）
- ・ 第 4 回 令和 2 年 10 月 14 日（水）
- ・ 第 5 回 令和 2 年 11 月 27 日（金）
- ・ 第 6 回 令和 3 年 3 月 11 日（木）

また、令和 2 年度 FD 研修会及び FD 講演会の内容を検討するため、令和 2 年 7 月 9 日（木）に FD 研修会・講演会検討 WG を開催した。

イ 審議された主な事項

- i) 令和 2 年度 FD 活動計画
- ii) 令和 2 年度年度計画に係る実施計画の作成
- iii) 令和 2 年度授業公開の実施
- iv) 令和 2 年度学生による授業評価の実施
- v) 令和元年度学生による授業評価報告書の作成
- vi) 令和 2 年度前・後期「学生による授業評価アンケート」の集計結果に基づく自己評価レポートの作成
- vii) 令和 2 年度 FD 研修会及び FD 講演会の実施

ウ 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等**i) 令和 2 年度 FD 研修会及び FD 講演会の実施**

FD 研修会及び FD 講演会については、FD 活動の一環として、ここ数年では、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れることにより、学校現場でアクティブ・ラーニングを実践できる教員を養成することを目的として開催している。令和 2 年度は、ティーチング・アシスタント、ティーチング・サポーター及びリサーチ・アシスタントを担う学生を対象に、授業におけるアクティブ・ラーニングの実践をサポートするための理解を深める研修として、令和 3 年 2 月 3 日（水）に「オンライン授業における TA の活用」をテーマとして、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、オンラインでの研修会を実施した。

研修会には、アクティブ・ラーニングの積極的な導入に取り組む教職員等 58 人、ティーチング・

アシスタントを中心とする学生 5 人が出席した。

また、令和 2 年 12 月 16 日（水）には「COVID-19 時代におけるアクティブ・ラーニング」をテーマとして、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、オンラインでの講演会を実施した。

ii) 学生による授業評価に係るシステムの導入

本年度の授業評価の実施に当たっては、平成 28 年度に「機能強化促進経費」として予算措置されたことにより構築した Web 入力による授業評価アンケートシステムを導入し、授業評価の基本的な流れを変更せずに業務を効率化できるよう図った。

また、新型コロナウイルス感染症防止対策のためオンラインでの授業を実施したことから、アンケートにオンライン授業に関する事項を追加した。

③ 優れた点及び今後の検討課題等

ア 優れた点

- i) 令和 2 年度 FD 研修会の参加者からは「他大学の取組について具体的な内容がわかり、参考になった。」や「インストラクショナルデザインにおける各学習者の各理論を教授者・T A ・T S が背景から深く理解しておく必要があると感じた。」等の、講演会の参加者からは「教えと学びの関係について確認でき、整理の手がかりを得た。」や「学生の目線を大切にする授業について改めて考えた。」等の感想が寄せられた。

- ii) Web 入力による授業評価アンケートシステムを実施し、引き続き、授業評価アンケートの効率的な実施及びコストの削減に寄与した。

また、新型コロナウイルス感染症防止対策のためオンラインでの授業実施についても対応した。

イ 今後の検討課題

- i) 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う資質能力の向上について（平成 27 年 12 月 21 日）」の中で指摘されている「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善等に対応した教員養成への転換」の実現に向けた取り組みの継続
- ii) Web 入力による授業評価アンケートシステムに係る回収率の向上及びシステムの充実
- iii) 授業公開における参観者数の向上
- iv) 今後の大学改革に伴う「教職大学院フォローアップセミナー」のあり方